

2010年12月10日「TPP(環太平洋経済連携協定)を考える緊急学習会講演レジュメ」

「TPPが日本の未来と私達の暮らしに与える影響」

北海道地域農業研究所 太田原高昭

1. TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)とは何か

- (1)自由貿易と保護貿易—GATT(貿易と関税の一般協定)の理念
- (2)WTO(世界貿易機構)農業交渉の行き詰まり—途上国の抵抗
- (3)FTA, EPA(二国間貿易、経済協定)の進展
- (4)TPPを利用してゼロ関税をめざすアメリカ
- (5)菅総理の突然の参加表明—「みんなが飛び込んでいる」

2. 「平成の開国—バスにのりおくれるな」論の吟味

- (1)日本は本当に開国していないのか—農産物平均関税率11.7%
- (2)もし関税をゼロにしたら—食糧自給率14%の恐怖
- (3)労働市場、医療、金融自由化の影響は
- (4)韓国はどうするのか—FTAを進めるがTPPには入らない
- (5)WTO「関税同盟(G10)」諸国への裏切りは許されない

3. 「農業は国民経済の1.5%」という驚くべき認識

- (1)農林漁業と関連産業の実際のウエイト
- (2)農林漁業なくして地域経済はなりたたない
- (3)農林漁業の「多面的機能」と「外部経済価値」
- (4)直接所得補償政策の意義とその限界
- (5)外務大臣に問う—沖縄と北方領土は0.5%か

4. 北海道におけるTPP参加反対運動とその特徴

- (1)オール北海道の農業支援体制—農商工連携と協同組合間協同
- (2)「中央と一線を画して」反対に立ち上がる北海道財界
- (3)道経連の北海道経済自立戦略と「クラスター経済論」
- (4)産官学一体の北海道米の品質向上と「地産地消」戦略
- (5)コープさっぽろの経営再建と「協同組合間協同」